

平成28年度 研究推進計画

安芸太田町立加計小学校

1 研究主題

自分の考えをもち、対話の中で考えを深め、学び続ける児童の育成
～ すべの活用と建設的相互作用が生まれる授業設計を通して ～

2 めざす児童像

5つの学ぶ力を身につけ、深い学びを創ることができる児童

3 主題設定の理由

本町では、児童生徒の主体的な学びを促進するため、各教科及び道徳の時間において「協調学習」を引き起こす指導方法等に係る実践研究を行っている。今後、学力調査の結果だけでは把握できない「協調学習」の成果を評価・検証していく方法について研究し、「21世紀型能力」などこれからの時代を生きる児童生徒に必要な学力の向上を図っていくことが課題である。

そこで、町内の指定校3校での研究推進委員会と校内研究推進委員会が、まさにスクラムを組み、「協調学習」を柱に、実りある課題発見・解決学習が推進できる研究組織体制を構築していく。

4 児童の実態

- 平成27年度全国学力・学習状況調査の正答率は、国語A(79.1)、国語B(75.4)、算数A(75.9)、算数B(62.1)、理科(64.0)であり、算数A以外は広島県平均を上回っている。全国平均は全てについて上回っている。また、全国平均を超えた児童の割合は、55%である。
- 平成27年度「基礎・基本」定着状況調査通過率は、国語Ⅰ(75.9)、国語Ⅱ(47.9)、算数Ⅰ(75.0)、算数Ⅱ(41.7)、理科Ⅰ(66.7)、理科Ⅱ(45.8)であり、いずれも広島県平均を下回っている。また、県平均を超えた児童の割合は、40%である。
- 平成27年度「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙調査票の肯定的回答の割合は、(8)が67%、(9)が100%、(13)が83%、(14)が83%、(15)が67%、(16)が67%、(17)が67%、(18)が75%、(19)が75%、(20)が83%、(21)が83%、(22)が83%、(23)が67%、(24)が83%、(25)が83%、(26)が75%、(27)が67%である。
- 平成28年2月に、全学年で行った安芸太田町学力調査(東京書籍標準学力調査)〈国語、算数、理科、社会〉において、全国平均を超えた児童の割合は、71%であった。

5 研究仮説

「5つの学び方(すべ)」を獲得・活用したり、「建設的相互作用」が生まれたりする授業設計を行えば、「5つの学ぶ力(課題発見力、思考力、伝え合う力、意志力、耐える力)」を育成することができ、「人間力につながる深い学び」を創ることができるであろう。

6 研究の具体的内容

本校では、「5つの学び方(すべ)」を獲得・活用したり、「建設的相互作用」が生まれたりする授業設計を行うことで授業改善を進め、児童に「5つの学ぶ力」(課題発見力、思考力、伝え合う力、意志力、耐える力)を身につけさせ、自分の考えをもち、対話の中で考えを深め、学び続ける児童の育成をめざす。

また、「協調学習」の理念や知識構成型ジグソー法の手法を取り入れ、自分の考えを大事にして、一人では十分な答えが出せない課題について、みんなで考えを出し合って、より良い答えをつくり出す「主体的な学び」を進めていきたい。

さらに、本校は平成28年度より4小学校が統合され、校区が格段に広がる。そこで、学年に応じ、より広い地域の事象について、総合的な学習の時間の単元開発を進め、「課題発見・解決学習」を進めていきたい。

7 研究主題に関わって

(1) 「建設的相互作用」とは

三宅なほみ先生は、『東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 自治体との連携による協調学習の授業づくりプロジェクト 平成22年度活動報告書』第1章 協調的な学習の仕組みの中で、「建設的相互作用」について、次のように説明されている。

話し手Aが一生懸命自分のアイデアをより良くしようとする学びに従事している間、聞き手BはAのアイデアをBなりに理解して、その適用範囲を広げるような学びに従事している。

しかもAとBは、時々役割を交代するので、しばらくするとBが解提供者として自分の（最初より適用範囲の広がった）アイデアについてことばにしながら学び直し始めると、それを受け取るAが今度はそのアイデアの適用範囲を広げる方向で学び直す過程が起きる。

私自身は、この現象を、「建設的相互作用」と呼んでいる。

(2) 「知識構成型ジグソー法」とは

3つの異なる考えを組み合わせ、課題に対する答えを出す学習方法。

- ①エキスパート活動では、各エキスパート班が、授業の柱となる課題に答えを出すための部品となるそれぞれ異なる資料や活動に取り組む。
- ②ジグソー活動では、エキスパート活動で得た知識を活用し、違った考えを組み合わせながら授業の柱となる課題に答えを出す。
- ③クロストークでは、多様な解を一般化し、一人一人の納得がより深化することをねらう。

(3) 「深い学び」とは

加計小学校では、「深い学び」を「人間力」を伸ばすことにつながる学びであると考えています。言い換えれば、社会人としての「知的態度、思考の習慣、価値観」につながり、「自己有用感、人間として成長したという実感、深い納得」が生まれる学びのこと。

(4) 「5つの学ぶ力」とは

- ①課題発見力 ②思考力 ③伝え合う力 ④意志力 ⑤耐える力

これらの資質・能力は、子供が社会人となってからも、自律的・創造的に活用して課題発見・解決していく力であり、まさに私達の目指す「人間力」と言える資質・能力である。

<加計小で身に付けたい5つの資質・能力の具体像>

	資質・能力	低学年	中学年	高学年
スキル	課題発見力	★「やってみよう」と主体的に課題解決に取り組もうとする力。	★「なぜこうなっているのか。」と分析的に課題解決に取り組もうとする力。	★「なぜこうなっているのか。」「どんなことが関係しているのか。」とより分析的に課題解決に取り組もうとする力。

	思考力	★これまでに学習したことを使って考える力	★課題解決に向けて、知識や情報を活用して考える力。比較して考える力。	★課題解決に向けて、知識や情報を活用して考える力。比較・分類・関係づけて論理的に考える力。
	伝え合う力	★伝えたい願いをもち、自分の考えを積極的に伝える力。相手の話を大事なことを落とさないようにしながら最後まで聞く力。	★伝えたい願いをもち、自分の考えをとその理由を明らかにして、相手に伝える力。話の中心に気をつけて聞き、質問したり感想を述べたりする力。	★伝えたい強い願いをもち、思い伝えるための技能を身につけ、相手に分かりやすく伝える力。相手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる力。
意欲・態度	耐える力	★最後まであきらめずに粘り強く取り組む力	★失敗してもあきらめずに、再チャレンジする力。	★困難なことに出会っても、踏ん張って努力し続ける力
倫理観・価値観	意志力	★目標をもち、その実現に向けて前向きに取り組む力。	★目標を自己決定し、その実現に向けて前向きに取り組む、継続する力。	★将来の夢や目標を自己決定し、夢の実現に向けて前向きに取り組む、継続する力。

7 研修計画と成果指標

		月	内容	講師予定	
①	校内研修等の予定	4月	「学びの变革」実践指定校事業研究推進及び「協調学習」について	町教委主幹	
		5月	授業研究（「協調学習」算数）	東大特任助教	
		6月	授業研究（「協調学習」算数）	東大特任助教	
		7月	授業研究（音楽科＜合唱＞講座会場校） 理論研修「学びの变革」パイロット校の実践から学ぶ（算数科・総合的な学習の時間）	教育センター指導主事 神石高原町立三和小学校パイロット教員	
		8月	10月教材・指導案等検討 評価の在り方、総合的な学習の時間について	東大特任助教 町教委主幹	
		9月	授業研究（「協調学習」算数）	東大特任助教	
		10月	授業研究（「協調学習」算数）	芸北支所指導主事	
		12月	合同公開研究会（算数）	東大白水始教授他	
		1月	授業研究（「協調学習」算数） 授業研究（「協調学習」算数）	芸北支所指導主事 東大特任助教	
		2月	6年目研修授業研究（「協調学習」算数） 加計中公開参加 今年度のまとめ	芸北支所指導主事 東大特任助教 町教委主幹	
②	成果指標	指標	達成目標	検証時期	検証方法
		タイプII問題 通過率	3教科平均 県平均+5%	6月	「基礎・基本」 定着状況調査

		(13) 自ら課題を設定し解決しようとしている児童	肯定的回答 80%	6月, 12月	「基礎・基本」 定着状況調査 及び学校アンケート
		(18) 情報を比較・分類・関係付けして考えている児童	肯定的回答 80%	6月, 12月	「基礎・基本」 定着状況調査 及び学校アンケート
		(25) 対話を通して、自分の考えを深めたり広げたりしている児童	肯定的回答 80%	6月, 12月	「基礎・基本」 定着状況調査 及び学校アンケート
③	成果の普及活動	<p>(1) 町内外の教職員を対象にした公開研究会を実施する。</p> <p>10月 安芸太田町協調学習研究会の開催【指定校2校と合同開催】</p> <p>(2) 校内研修(授業研究)を町内にも通知し、研究内容の普及を図る。</p>			